
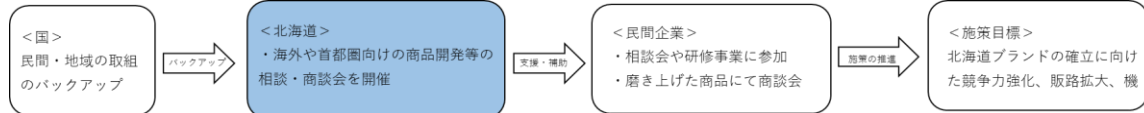


<b>令和3年度 基本評価調書①</b>		所管部局	経済部	所管課	食産業振興課	
施策名	道産食品の高付加価値化の促進			施策コード	05012	
政策体系(中項目)	本道の優位性を活かした力強い地域産業の創造			政策体系コード	2(2)B	
知事公約	C0003 C0102 C0109 C0110 C0111 C0112 C0113	総合戦略	A3111 A3112 A3113 A3121 A3122	国土強靱化	B4221	事務事業数 14
SDGs	 			総合判定	やや遅れている	

### 【1 Plan】

施策目標	産学官金のオール北海道体制による食クラスター活動を中心に、マーケティング力に優れた人材の育成や付加価値の高い商品の発掘・磨き上げ、機能性食品など今後成長が期待される分野への集中的な展開、フード特区の活用などにより、食の関連産業の集積を図り総合産業群を形成する。					
現状と課題	マーケットニーズ等に対応した製品開発や既存製品の磨き上げなどにより付加価値をより高めていくとともに、国内はもとより、海外への販路開拓を進めることが必要。					
主な取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食品製造業を支える人材、マーケティング人材の育成</li> <li>・フード特区の取組の推進、特区制度の活用を検討</li> <li>・食クラスター連携協議体の運営支援</li> <li>・地域食品加工技術センターによる研究開発支援</li> <li>・北海道食品機能性表示制度（ヘルシーDo）を活用した食の高付加価値化の推進</li> </ul>					
予算額(千円)	R 3	257,323	R 2	287,696	R 元	280,854
施策のイメージ						

### ＜成果指標の達成状況＞ ⇒ 3つ以外の指標は、補助指標調書に記載

指標名①	増加	万円	H29年度	H30年度	R元年度	最終目標(R7)	達成率	指標判定
製造業の付加価値生産性(暦年)	目標値		1,116	1,198	1,280	1,280	80.1%	C
	実績値		978	991	1,025	-		

設定理由 総合計画における政策の方向性「本道の優位性を活かした力強い地域産業の創造」の観点から指標として設定。

#### 分析(主な取組と成果)

国の統計(工業統計調査)は、R3.5に公表されたR2年度分(R1年度分の集計値)が最新。製造業全体では付加価値額、付加価値生産性とも着実に伸びているが、目標には達していない。

指標名②	増加	億円	H29年度	H30年度	R元年度	最終目標(R7)	達成率	指標判定
食品工業の付加価値額(暦年)	目標値		6,774	6,842	6,910	7,200	99.3%	B
	実績値		6,774	6,730	6,862	-		

設定理由 総合計画における政策の方向性「本道の優位性を活かした力強い地域産業の創造」の観点から指標として設定。

#### 分析(主な取組と成果)

国の統計(工業統計調査)は、R3.5に公表されたR2年度分(R1年度分の集計値)が最新。食品工業においても付加価値額が着実に向上しているが、目標値には届かなかった。

指標名③	増加	品目	H30年度	R元年度	R2年度	最終目標(R6)	達成率	指標判定
ヘルシーDo累計認定件数	目標値		103	118	133	195	88.0%	C
	実績値		100	110	117	-		

設定理由 北海道創生総合戦略に基づき、「北海道ブランドの発信と道産品の販路拡大」を測る評価指標として設定。

#### 分析(主な取組と成果)

R元年度までは達成率90%以上であったが、R2年度から90%を下回った。企業からの申請件数の減少が主な原因となっている。

令和3年度 基本評価調書②	施策名	道産食品の高付加価値化の促進	施策コード	05012
---------------	-----	----------------	-------	-------

### 【2 Do&Check】

成果指標	指標名	前々年度	前年度	評価年度	評価年度目標値	指標判定
成果指標	製造業の付加価値生産性（暦年）	978	991	1,025	1,280	C
	食品工業の付加価値額（暦年）	6774	6,730	6,862	6,910	B
	ヘルシーDo累計認定件数	100	110	117	133	C
目標（指標）の達成状況	ヘルシーDo累計認定件数については、ここ数年10品程度の増加となっており、目標値である年間15品の認定には至っていない。				指標総合判定	C
連携状況	ヘルシーDo推進協議会等との連携を行い、ヘルシーDoの普及に努めるとともに、どさんこプラザでのヘルシーDoフェアにおいて事業者と連携してヘルシーDo商品の販売を実施した。				連携判定	○
緊急性優先性	道内商品事業者の約8割が健康増進効果のある食品に関心を持っていたため、セミナー等によりヘルシーDoの普及を実施した。				緊急性優先性判定	○
総合判定の根拠	道産食品の高付加価値化に向けて、ヘルシーDoの新規商品の認定や普及・販売促進活動が着実に進められているものの、指標の達成に向けてはさらなる取組が必要。				総合判定（一次評価）	やや遅れている

翌年度に向けた対応方針	対応方針番号	内容
	①	目標件数達成に向け、セミナーや事業者が申請しやすい環境を整えることにより、認定商品の増加に向けて取組を進めていく。
	②	
	③	

### 〈二次政策評価〉

前年度二次評価意見	新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえ、施策の目標達成に向け事業内容を精査すること。	対応状況 (R3.3時点)	・ウィズコロナ・ポストコロナを見据え、食関連産業を牽引する人材育成を実施。 ・新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止に配慮したプロモーションを実施。
R3年度二次政策評価	道産食品の高付加価値化の促進のため、産学官金のオール北海道体制による食クラスター活動を中心とした、マーケティング力に優れた人材の育成や付加価値の高い商品の発掘・磨き上げ、機能性食品など今後成長が期待される分野への集中的な展開などは重要であり、食の関連産業の集積を図り総合産業群を形成する取組の一層の推進を検討すること。		

### 【3 Action】

二次政策評価への対応	道産食品の高付加価値化に向けた施策として、食クラスター活動等を通じ、デジタル化、健康志向の高まり等の新たな消費者ニーズに対応した商品開発力、マーケティング力、人材育成等をより一層強化し、高付加価値な商品づくりを行うとともに、首都圏等における商談機会の提供、高付加価値化市場へのプロモーションを行う。
R4施策の方向性	認定商品の増加に向けた取組を推進するため、機能性食品の開発企画からマーケティングに至るまで一貫したスキルを習得させるための実践講座を開催するとともに、専門家がサポートする伴走型の商品開発支援を実施し、事業者の着実な商品開発につなげる。

令和3年度 補助指標調書①	施策名	道産食品の高付加価値化の促進	施策コード	05012
---------------	-----	----------------	-------	-------

【成果指標の達成状況】

補助指標名①	増加	人	H30年度	R元年度	R2年度	最終目標(R6)	達成率	指標判定
食クラスター地域フード塾修了生		目標値	30	30	30	30	130.0%	A
		実績値	28	30	39	-		
設定理由	北海道創生総合戦略に基づき、「食クラスター活動の展開による道産食品の高付加価値化と食産業の強靱化」を測る評価指標として設定。							
分析（主な取組と成果）								
食クラスター地域フード塾の過年度修了生から事業者への周知や、過去実績の評判等により安定して応募があるため、計画通りに修了生を輩出している。								

補助指標名②	増加	億円	H30年度	R元年度	R2年度	最終目標(R3)	達成率	指標判定
特区が関与した食品の輸出額・輸入代替額		目標値	510	1,030	1,730	2,600	66.9%	D
		実績値	600.1	904.3	1,157.4	-		
設定理由	北海道フード・コンプレックス国際戦略総合特別区域計画に基づき、特区に及ぼす経済的社会的効果を測る評価指標及び数値目標として設定。							
分析（主な取組と成果）								
輸出の主力であるホタテ等の水産品の輸出額の大幅な落ち込みや、北海道発着の国際航空路線の運休（貨物便のみ運行）に伴う羽田空港からの輸出振替や世界的なコンテナ不足に伴う発着遅延などの物流面が影響し目標が未達成となった。								

補助指標名③	増加	件	H30年度	R元年度	R2年度	最終目標(R3)	達成率	指標判定
企業と一次産業との連携プロジェクト数		目標値	10	15	20	25	110.0%	A
		実績値	10	16	22	-		
設定理由	北海道フード・コンプレックス国際戦略総合特別区域計画に基づき、特区に及ぼす経済的社会的効果を測る評価指標及び数値目標として設定。							
分析（主な取組と成果）								
企業の連携ニーズの開拓や一次産業とのマッチング、連携プロジェクトの創出等を行い、プロジェクト数が22件となった。								

補助指標名④	増加	件	H30年度	R元年度	R2年度	最終目標(R3)	達成率	指標判定
機能性素材の新規研究開発プロジェクト数		目標値	34	54	76	100	84.2%	C
		実績値	33	45	64	-		
設定理由	北海道フード・コンプレックス国際戦略総合特別区域計画に基づき、特区に及ぼす経済的社会的効果を測る評価指標及び数値目標として設定。							
分析（主な取組と成果）								
機能性素材の新規研究開発プロジェクト件数は着実に増加しているが、目標値には届かなかった。								

補助指標名⑤	増加	件数	H30年度	R元年度	R2年度	最終目標(R3)	達成率	指標判定
輸出に必要な国際認証・登録等数		目標値	20	30	40	50	170.0%	A
		実績値	42	54	68	-		
設定理由	北海道フード・コンプレックス国際戦略総合特別区域計画に基づき、特区に及ぼす経済的社会的効果を測る評価指標及び数値目標として設定。							
分析（主な取組と成果）								
国際認証の取得・登録に向けた研修会を開催し、企業による認証取得・登録のサポートを行った。								

